

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2472200266		
法人名	グループホーム キノシタ(有)		
事業所名	グループホーム すいせん		
所在地	三重県三重郡川越町大字高松203-2		
自己評価作成日	平成24年9月9日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku_ip/24/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigvoCsCd=2472200266-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成24年10月 4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

昨年末から大きく取り組んでいる「皆と食事作り」と「利用者と職員での買い物」を毎日実施し、少しの事でも皆が参加出来る様心掛けています。今まで外出困難だった利用者も同様に買い物に誘い、全体的に外へ出る機会が増え生活にも張りが出ました。買い物の際は「笑顔」になる方が多く、中には自分の仕事(役割)だと思っている方もいます。また小グループでの外食等も行い、満面の笑みで食事をされ楽しかったと帰ってきます。ささいな医療面ですが、皮膚の弱い方、内服困難な方、便秘の方等々それぞれ細かく把握し本人の負担が少ないように心掛け対応しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

昨年度の目標達成計画に掲げた外出支援・入浴・災害対策について、職員数の不足や会社の所有者変更など、不安要素が絡む中で職員同士で連携と努力により3点とも目標達成をしている。まず外出支援については、献立を利用者と共に考え、それに沿った食材を利用者と毎日買い出しに行くことにより、必然的に地域との結びつきが強くなるとともに、利用者の生きがいや笑顔につながっている。災害対策についても、非常口を増加したり、地区の津波想定訓練に利用者と共に参加をして、避難時の実情把握に努めている。具体的な行動を通して実践に取り組むことで、理念を現実の生活にうまく生かしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念にあるように「家事」を主に毎日の買い出しで地域と触れ、毎日の食事作りを皆で行う事で人と人がふれあい、刺激のある毎日を実践しています。	毎日食材と一緒に買い出しに行く等の具体的行動を通して、理念で謳っている利用者の笑顔や優しさを誘い出すとともに、地域との結びつきも強めている。一日一日を大切に過ごす姿勢が、そのまま理念に結び付いている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	毎日買い出しに店へ行く事で、自然と買い物客や店員さんと話す事が出来、地域の中で生活している一つながりを感じていると思います。	地域の高齢者の集いや梅まつりに参加するなど、地域の人たちとは自然に付き合いができています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居の相談にみえた家族さんに「認知症」について説明したり、家庭での困った介護場面のアドバイスをしたり、悩みを聞いたりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	津波を想定した防災訓練報告を皆に説明し、万一の際は早さを求め車イスでの避難を行う事や近所の方に応援依頼する事などを説明しました。	職員不足や所有会社の変更などにより落ち着いた会議運営ができず、年2回の開催にとどまっているが、必要に応じて必要な関係者と話し合いをして利用者本位に考えた対応をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加していただいたり、窓口へ相談へ行ったり、電話連絡など密に取り、協力関係を築いている。	権利擁護の支援を受けている人や生活保護受給者も受け入れているため、いろんな場面で行政とは密接な連絡を取っている。事業者間会議も町社協主導で2か月に1回あり、参加をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会議や朝礼時(申し送り)で「拘束」について話し合っている。玄関は毎日、日中施錠しないようにしている。	ベッドからのずり落ちによる危険回避と、4点柵の拘束を避けるために、長いクッションを利用して隙間を埋めるなど、事故防止を兼ねた創意工夫をしている。花の水やりなど利用者は玄関を自由に出入りしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同じく全体会議や申し送りにて確認し、怪我やあざがあれば原因を調べるようにし注意喚起している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護利用者3名、成年後見人制度を2名が利用し、各担当者との意見交換など行い制度を活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に契約説明書及び重要事項説明書に沿って説明し、意見交換行い不明な点がないよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族からの要望や意見は申し送り時や会議で話し合い、連絡ノートやケアプランに反映し共通認識できるように努めている。	会社の所有者が交代したことで従来の振り込みや現金支払から引き落としへの変更を説明したが、家族の要望を聞き、今まで通りの方法も必要に応じて残すことなどを決定し、家族意見を反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りや会議などで出た意見は、代表者や管理者へ提案し反映できるよう、話しやすく意見交換しやすい環境を心がけている。	利用者間の良い雰囲気を作り上げるために、利用者同士の席替えを職員提案により、全員で検討、対応をしたり、職員への心づけをする利用者には、社長名で張り紙をして中止を呼びかけるなど、機会を捉えて、その都度意見を反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は施設来所の際に各利用者や各スタッフの体調や心労など管理者やユニットリーダーに確認し、状態把握に努め直接意見交換行い、モチベーションの維持に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	独自(施設内)の勉強会を行ったり、認知症の研修会にどんどん参加するよう強く勧め、職員のレベルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町の事業者間会議が2ヶ月に1度あり、そこで意見交換等行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と職員が数多く面識を持ち、特徴、性格等把握し、本人にとって必要な介護や要望などを慌てず、細かく把握するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の「思い」をしっかりと聞き取り、入居前にじっくりと意見交換を行い、不安を少しでも取り除ける様にしている。またしっかりと受け入れる意思があることを示し安心してもらえるようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族が必要としている支援を考え、施設での支援内容や他施設、病院等の支援内容なども説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者個々のできる事に応じ、職員と一緒に炊事、洗濯、買い物、掃除など生活活動を行い、喜んだり、楽しんだり、感謝したり、怒ったりと一喜一憂し関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族がいつでも訪問できるような環境づくりに努め、近況報告をしながら家族の希望を聞き、本人、家族への支援に繋げている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	持ち家のある方には月1度家に戻り、家の様子を見て頂いたり好きなように過ごしてもらっている	入居前に活動をしていたサークルの人が訪ねてきたり、墓参りや氏神様参りなど馴染みの関係が途切れないよう、家族の協力も得て継続支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活活動(炊事、洗濯、掃除、買い出し、お茶タイム等)を通し、職員と利用者同士が話をしながら関わり合えるよう環境作りをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去になっても病院へ面会に行ったり、施設来所の際は雑談を交えながら意見交換を行い、家族の想いやストレス発散の場としてアフターケアを行うようにしている。写真集を作成し渡す事も。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人さんの本心がつかみづらい方には家族さんと密に連絡、話し合いを行い「想い」を把握するよう努めている。	施設入所の主人に会いに行きたいとか、自由に過ごしたい等の希望がある利用者には、外出計画をケアプランに組み込んで対応するなど、意向に沿った支援を検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人、家族から情報収集に努め、入居後も更に情報収集に努めサービス向上に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日報や申し送り、バイタル表と表情や会話、行動等毎日変化する入居者の容態を職員全員が把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、職員(介護、看護含む)でよく意見交換し、会議等を行い介護計画を作成している。	各ユニットごとに会議を開いて意見を聞き、ユニットリーダーが中心になって計画作成を行っている。モニタリングは毎月行い、3か月ごとの計画更新に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者個々の問題点を日々の観察記録や朝礼時に話し合い、会議等で介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	「ここを出して下さい」と帰宅を願望される方によく話し合いを行い、その想いを家族さんに伝え、本人さんの想いを皆で理解するよう対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を利用したり、町や自治会主催の催し会などに可能な限り参加するようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医を継続される方は、今まで通りにしているが、月2回提携医院の往診もある。いつでも医療を受けられるようにしている。	協力医による往診が2週に一度あり、看護師も週2回～3回来ている。看護師による24時間体制の相談ができるようになっている。内科以外の診療科には、家族による同行支援をお願いしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医師と介護職の連携を図り、適切な医療指示を現場に落としている。24時間連携が取れ介護職員からの信頼も厚い。また家族への連絡も細かくしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際には、管理者や看護師、職員が様子を見に行き、入院先の医師や看護師、ケースワーカーなどと意見交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「終末期の在り方」「重度化した場合における対応の係る指針」として書類を作成し、かかりつけ医や施設の主治医・看護師・介護職員などと連携しミーティングをしている。	看取り指針もあり、ここで最期までとの看取り希望があれば、対応する体制はあり、今までに看取り経験は1件だけある。夜勤時の職員体制による不安は否めないが、ターミナルと認定された場合には医師や家族と相談して、その都度対応していく予定である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時は看護師に連絡し、看護師や医師から指示を受けられるように連携を取っている。また看護師から心肺蘇生法の訓練も実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地区主催の津波想定防災訓練に参加し、実際に体験する事で問題点を洗い出し、利用者、スタッフに説明し防災意識を高めて万に備えている	津波が来るまでの10分に何ができるかを想定した地区主催の防災訓練に参加したが、利用者と共に小学校の2階までの避難がやっとであった。夜間想定での火災訓練や消防との連携による訓練は実施している。	今後は、職員一人ひとりが実際に利用者の車いすを押して避難場所までのくらくらかかるか等、体験を通した取組みをされることを希望する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者さんに失礼がないように言葉使いには十分注意し、一人一人の尊厳を大事にするように会議やその場で注意し合うようにしている。	言葉が話せない人との交流はマンツーマンで汲み取るようにするなど、個々の対応に注意をしている。玄関先には面会簿が置かれているが外出や訪問者と利用者との関係など、一覧表による記入形式は利用者のプライバシーが分かる恐れがある。	面会簿はできれば個人単位で記録し、外部の人の目に触れない配慮が望まれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定がしやすいように、話をよく交わすように職員は心掛けており、希望を把握した際には実現すべく調整を図っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のその日の過ごし方は、利用者が決める姿勢を取っており、職員が意思確認している。自己決定できない利用者に対しては個別に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容院へ行きたい利用者は日程調整し外出の手配をしている。また服や化粧品なども買い物に行ける様にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員皆が楽しく食事ができるように、毎日一緒に買い出しや食事作りを実施している。	利用者と共に献立を考え、食材の買い出しに毎日出かけている。食事作りや食器拭きなど出来る範囲で利用者が手伝い、生活の主軸に添えて食事を楽しむ支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事内容、食事量、水分摂取量の把握をし、個別に支援している。また脱水、便秘、下痢には常に気を配り対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者個々に合わせて、場合によっては口腔ケア用品を使用し必要に応じ歯科受診している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者個々に合わせて、可能な限りトイレにて排泄していただくように支援している。また一人介助が困難な方には二人介助にて対応している。	オムツ使用から脱却すべく、排泄チェック表を基に排便チェックに務めた結果、トイレ誘導により昼間は布パンツに変更できるなど、自立支援に向けた支援を成功させている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便記録から便秘の方には排便コントロールを行い、場合によっては薬(下剤)を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	遠慮していつもシャワー浴される方でも「湯船」に浸かっていただけのような話し、入りやすい環境を作っている	時間帯を決めずに入浴できるように、その日の入浴者を相談して決定し、一人が週2回は入浴できるようにしている。利用者と職員の1対1の入浴タイムは本音を聞くことができ、介護に活かしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	職員間でよく話し合い、夜間睡眠できるように日中は「食事作り」を主に活動している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報は看護師より指導を受けている。また服薬がきちんとできているか職員間で連携し、最後まで飲み残しがないか確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	施設での役割を持ちたい方が多く、いきいきと笑顔で参加できるように沢山役割を作って支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気の合う利用者同士と喫茶店や外食に家族や職員が同行し、外出(外食)を楽しめるように職員間で調整し支援している。またその時の写真も貼り出している。	食材の毎日の買い出しの他に、事業所周辺の散歩や誕生日に外食するなどの外出計画もあり、家族同行で楽しめるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	生活保護者が半数を占め、お金はデリケートな問題として個別に取り扱っている。利用者の希望に応じ職員と一緒に買い物へ出掛ける時は、自分でお金を払えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでもかけられるようにしている。お中元やお歳暮をもらう利用者にはお礼の電話をしたり、品物を一緒に買いに行ったりし支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先が日陰のため、よくそのベンチに座り花を見たり、ツバメを見たり、子供達と挨拶したり、よくお話の場となっている。	ソファをリビングや廊下などあちこちに置いて、いつでもどこでもすぐに休めるよう工夫している。リビングや廊下から直接出られるようベランダをスロープに改装して、新たに出口を確保している。災害対策も兼ねた安心できる生活空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内で「食事の場」とソファを活用し「憩いの場」を別々に提供し、個々に過ごしやすい環境に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は使い慣れた物や好みの物を置いて心地よく過ごしていると思う。また家族さんが見えてもゆったりと過ごせる広さだと思います。	位牌を置いている方や絨毯を敷いている方、壁に写真を貼ったりするなど、それぞれの本人の好みに応じた部屋作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーで随所に手すりがあり、歩行器にて歩行運動を行ったり、生活活動しやすい環境になっている。		